



短報

神奈川県葉山町から得られた北限記録の

スズメダイ科魚類タカサゴスズメダイ

Northernmost record of a damselfish, *Chromis weberi*, from Hayama, Kanagawa Prefecture, Japan

尾山大知^{1*}・柴田将司²

Daichi Oyama^{1*} & Masashi Shibata²

キーワード：三浦半島，相模湾，熱帯性魚類

Keywords: Miura Peninsula, Sagami Bay, tropical fish

はじめに

2023年に、三浦半島西岸に位置する神奈川県葉山町沿岸から2個体のスズメダイ科魚類 Pomacentridae Bonaparte, 1832 が採集され、外部形態や色彩の特徴からタカサゴスズメダイ *Chromis weberi* Fowler and Bean, 1928 に同定された。本種は国内では神奈川県以南に分布し（青沼ほか，2013；工藤ほか，2019），同県では城ヶ島から記録されていた（工藤ほか，2019）。今回の出現

は本種の神奈川県2例目の記録であると同時に、北限記録を僅かに更新することから、分布情報蓄積のためここに報告する。

材料と方法

採集調査は、神奈川県三浦郡葉山町堀内に位置する諏訪海岸（35°16'50"N, 139°34'05"E；図1）で、2023年9月24日に第2著者が手網を用いて行った。得られた魚類の一部は持ち帰り、氷殺後10%中性ホルマリン水溶液で固定した。その後75%エタノール水溶液に置換して各部の計数計測と形態観察に供した。標本の計数計測方法は中坊・中山（2013）に従い、本報における魚類の学名は本村（2024）に、スズメダイ科の分類体系と和名は古橋・本村（2021）に準拠した。鱗相の観察時にはサイアニンプルーによる表面染色を施した。標準体長（Standard length）は体長およびSLと略記した。本報で使用した標本は、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類標本資料（KPM-NI）または東京大学総合研究博物館動物部門の魚類資料（ZUMT）に登録した。なお、神奈川県立生命の星・地球博物館における資料番号は、

¹ 東京大学教養学部

〒153-0041 東京都目黒区駒場3丁目8-1

College of Arts and Sciences, The University of Tokyo, 3-8-1 Komaba, Meguro, Tokyo

153-0041, Japan

² 上智大学経済学部経営学科

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

Department of Management, Faculty of Economics, Sophia University, 7-1 Kioicho, Chiyoda, Tokyo 102-8554, Japan

*Email: d-oyama@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

(2024年8月10日受付, 2024年10月1日受理)

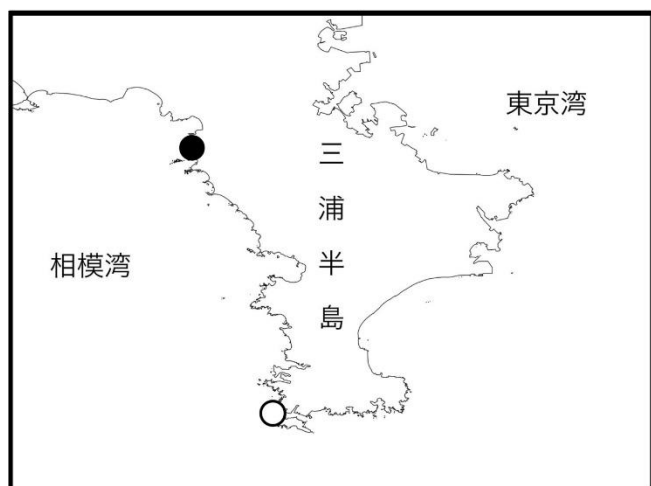


図 1. 神奈川県におけるタカサゴスズメダイの記録地点 [黒丸：葉山町諏訪海岸（本研究）；白丸：城ヶ島梶ノ浜（工藤ほか，2019）]。地図は国土交通省が提供する国土数値情報（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>）を基に著者らが編集した。

電子台帳上ではゼロが付加された 7 桁の数字が用いられているが、ここでは本質的な有効数字で表した。

結果と考察

タカサゴスズメダイ

Chromis weberi Fowler and Bean, 1928

(図 2–3)

標本：KPM-NI 79133 (24.5 mm SL)，ZUMT 67101 (24.7 mm SL)，諏訪海岸（神奈川県三浦郡葉山町堀内），2023 年 9 月 24 日，柴田将司採集。

上記 2 個体は、主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、下鰓蓋骨の後縁に棘があるが小さく鋸歯状であること、眼窩後半の内側に乳頭状突起がないこと、尾鰭上下端の前尾鰭条は棘状で上下各 3 本あること、眼下骨系の縁辺が円滑であること、体の後半部に黒色横帯がないこと、眼上部から後頭部にかけての各鱗に付属小鱗がないこと、臀鰭軟条が 9 本であること、背鰭棘が 13 本であること、前鰓蓋部と鰓蓋部の後縁が黒いこと、体高が体長の 40.2–40.5% であること、尾鰭上下両葉の外縁は黒くないが、後端に黒色斑があること、背鰭最長軟条長が体長の 20.0–21.6% であるこ



図 2. 神奈川県葉山町諏訪海岸で採集されたタカサゴスズメダイ (KPM-NI 79133, 24.5 mm SL, 生鮮時，尾山大知撮影)。



図 3. 神奈川県葉山町諏訪海岸で採集されたタカサゴスズメダイ
(KPM-NI 79133 か ZUMT 67101 のいずれか, 生時, 柴田将司撮影).

となどが青沼ほか (2013) の示したタカサゴスズメダイの標徴とよく一致した. また, 生鮮時 (図 2) および生時 (図 3) に, 眼の後方に 1 本の黒色線があること, および尾鰭先端が黒いことが加藤 (2011) の示したタカサゴスズメダイの幼魚の色彩的特徴とも一致した. 以上から, 今回諏訪海岸で得られた 2 標本は本種に同定された.

本種はアフリカ大陸東岸から仏領ポリネシアにかけての紅海を含むインド太平洋に広く分布し (加藤, 2011; 青沼ほか, 2013; Myoung *et al.*, 2023), 日本国内ではこれまでに神奈川県以南から記録されている (青沼ほか, 2013; 工藤ほか, 2019). 同県からの報告は, 2015 年 9 月に城ヶ島梶ノ浜から得られた幼魚 1 個体 (工藤ほか, 2019) のみであり (図 1), 本報は県内における 2 地点目の記録であると同時に, 本種の北限記録を僅かに更新する.

調査標本はいずれも, 諏訪海岸の水深 4 m にある岩礁の周辺を計 5 個体の群れで遊泳していたところを採集された. 採集時の水温は 22°C であった.

本種は熱帯性魚類であり (Myoung *et al.*, 2023),

亜熱帯地域では全長約 10 cm 以上まで成長する (吉野・瀬能, 2008). 本研究で得られた標本はそのサイズ (24.5–24.7 mm SL) からいずれも幼魚であると考えられ, 神奈川県下で本種が越冬しているかは不明である.

謝辞

本報の取り纏めにあたり, 馬淵俊輔氏 (麻布学園生物部) には文献収集に快くご協力いただいた. 和田英敏博士 (神奈川県立生命の星・地球博物館) ならびに藍澤正宏氏 (東京大学総合研究博物館) には標本の作製および登録にご協力いただいた. ここに記して感謝申し上げる.

引用文献

- 青沼佳方・吉野哲夫・柳下直己 (2013): スズメダイ科. 中坊徹次 (編) 「日本産魚類検索: 全種の同定. 第三版」. 東海大学出版会, 秦野. pp. 1029–1066, 2033–2036.
- 古橋龍星・本村浩之 (2021): スズメダイ科魚類の高

- 次分類群に対応する標準和名. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10 : 60–74.
- 加藤昌一 (2011) : スズメダイ, ひと目でわかる図解付き. 誠文堂新光社, 東京.
- 工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏 (2019) : 三浦半島南西部沿岸の魚類—IX. 神奈川自然誌資料, 40 : 49–58.
- 本村浩之 (2024) : 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 25. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html> (参照 18 June 2024).
- Myoung, S. H., Myoung, J.-G., Woo, M.-S., Kim, M. J., Kang, M.G. & Park, J.M. (2023): New record of *Chromis weberi* (Actinopterygii: Ovalentaria: Pomacentridae) from Jeju Island, southern Korea. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 53: 89–94.
- 中坊徹次・中山耕至 (2013) : 魚類概説第三版. 中坊徹次 (編)「日本産魚類検索:全種の同定. 第三版」. 東海大学出版会, 秦野. pp. 3–30.
- 吉野雄輔・瀬能 宏 (2008) : 山溪ハンディ図鑑 13 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.